

令和 8 年 10 月 16 日
高齢施策担当部介護保険課

在宅介護の負担軽減モデル事業の実施結果およびセミナーの開催について

令和 7 年度に、練馬区および練馬区介護サービス事業者連絡協議会、パラマウントベッド(株)との三者により実施したモデル事業について、効果検証が完了した。本事業の実施結果の周知および在宅介護の D X 推進に向けた取組として、区内介護事業者を対象に、「在宅介護 D X 推進セミナー・ I C T 機器展」を開催する。

1 I C T 機器を活用した在宅介護の負担軽減モデル事業の実施結果

(1) モデル事業の概要

在宅介護におけるサービス提供事業所職員および利用者本人・家族の負担軽減を目的に、特別養護老人ホームなどで既に導入が進んでいる入所者の見守り機能を有した I C T 機器（以下「見守り機器」という。）をモデル的に在宅介護の現場に導入し、その活用方法と効果を検証した。

(2) 検証に用いた見守り機器

眠り S C A N（使用台数：20 台）

※ パラマウントベッド(株)が提供する、体動（寝返り、呼吸、心拍等）を検出して睡眠状態を判定する非装着のベッドセンサー

(3) 実施期間

令和 7 年 7 月から 12 月までを検証期間とし、以下のとおり検証を実施した。

区分	対象期間	実施内容
事前実証	7 月～9 月	見守り機器を設置して睡眠データを取得（従来通りのケアを実施）
事後実証	10 月～12 月	事前実証で得たデータを協力事業所へフィードバックし、データに基づくケアプラン等の見直しや機器から得られるデータを随時活用したケアを実施

(4) 検証対象のサービス種別および協力事業所

提供するサービスの特性を踏まえて練馬区介護サービス事業者連絡協議会から推薦された以下の事業所の協力を得て、検証を実施した。

ア 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 1 事業所（検証利用者数：15 名）

イ 居宅介護支援 2 事業所（検証利用者数：計 5 名）

(5) 実施結果

見守り機器の活用による生活状況の見える化は、ケアを受ける側、支える側の双方に安心感をもたらすだけでなく、これまで把握が困難であった生活実態を客観的に捉え、課題分析の充実を図り、より実態に即したケアの提供と業務の効率化につながる有効な手段となり得ることが確認された。

【以下、個別の実施結果の一例】

ア 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

睡眠データに基づくサービス内容の見直しなどにより、利用者が本来必要としている時間に定期訪問が適切に追加されたことで、利用者からの随時連絡に対する対応が減少した。

イ 居宅介護支援

一人暮らし認知症高齢者を対象に検証を実施した結果、夜間の睡眠状況や頻回な離床、日中も長時間ベッド上にいる実態等、従来の訪問や聞き取りだけでは把握できていなかった生活実態が客観的データとして見える化され、課題分析を見直すことができた。

ウ 利用者本人および家族

利用者本人が睡眠データを客観的に把握し、自主的に生活の見直しを行ったことで生活状況が改善した事例や、利用者の在宅生活の継続を検討している家族が客観的データを安心材料として活用される事例が確認された。

(6) 周知

モデル事業の報告書を練馬区ホームページに10月掲載予定

2 在宅介護DX推進セミナー・ICT機器展の開催

(1) 実施日時

令和8年11月17日（火）午後1時から4時30分まで

(2) 実施場所

練馬区立区民・産業プラザ3階 Coconeriホール・産業イベントコーナー

(3) 開催テーマ

在宅介護でのICT機器の活用促進

(4) 企画内容

ア セミナーブース（モデル事業の成果報告、出展事業者によるプレゼンテーション）

イ 出展ブース（出展事業者による各ブースでの機器説明）

(5) その他

ア 共催

練馬区介護サービス事業者連絡協議会

イ 協力（出展事業者の選定、調整等）

一般社団法人 日本ケアテック協会